

# 令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

大阪市立瓜破東小 学校

児童数

241

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.80	15.55	32.05	37.80	32.85	9.55	150.20	17.10	48.60
大阪市	16.11	18.44	33.14	38.26	42.95	9.59	148.22	20.07	50.83
全国	16.21	18.86	33.97	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28
女子	17.38	17.38	38.38	37.00	31.56	9.47	140.76	16.38	55.19
大阪市	16.01	17.55	38.00	36.50	34.13	9.76	140.76	12.77	52.65
全国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31

### 結果の概要

男子は全般的に市、全国の平均を下回っている。逆に女子は平均を上回っている。体格から見ると男子は市、全国の平均に近い、女子は市、全国ともに3,4ポイント上回っている。体力合計点から見ると男子は市、全国より3ポイントほど低く、女子は2ポイントほど高い。内容的には、男子は持久力、敏捷性、巧緻性、筋力が課題である。女子は持久力と跳躍力に課題がある。「スポーツが好きか」という設問に対して男子は肯定的回答が多いが、女子は逆に少ない。「スポーツは大切な」については男女ともに否定的な回答が多い。「放課後や休みの日にスポーツをする」は男子で否定的な回答、女子では肯定的な回答が多い。しかし、一週間の総運動時間を見ると男女ともほぼ全員が6時間以上運動していると答えている。「放課後や…スポーツをする」の設問と男子は矛盾が生じる。「体育の学習が楽しい」は男子では肯定的回答が多く女子では否定的な回答が多い。

今回の結果の男女差の一つの要因としては男子と女子の体格差と放課後等日常的にスポーツをする回答したのも女子の割合が多いことが考えられる。一方で体育（スポーツ）に関する好感度は男子の方が大きい。結果の差に関しての明らかな要因は見受けられない。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

コロナ禍の中ここ3年運動場の休み時間の使用方法に制限をかけている。ドッジボールエリアとその他のエリアに分けながら運動量の確保をしてきた。また、一輪車や竹馬、縄跳びができるエリアも指定してある。2年前に比べると運動できる環境は戻りつつある。これまで年間を通して、縄跳びタイム、駆け足タイム等児童の健康の保持増進のため強調週間を意図的に設定してきた。環境整備としては、縄跳びのジャンピングボードの修理及び購入。各体育用具の整理。教員に対しては伝達講習会を行い若手教員の指導力向上に取り組んできた。その結果、運動場で遊ぶ児童が増えた。運動場の遊具を利用する児童が増えた。また、毎朝にスポーツ委員会の児童がコートのラインを引いてくれるので運動場が使いやすくなった。

今後は、大阪市で進めているシナプソロジーのエクササイズを本校の児童の実態にあったものになるよう体育部を中心に改良していきたい。そのエクササイズを教員だけでなく児童にも周知したい、スポーツ委員会の児童を中心に広めていきたい。児童が挑戦意欲を継続できるようカードの工夫や休み時間における遊びの多様化を図りたい。また、縦割り集会や児童集会等を利用し、体を動かすゲームを取り入れ運動に対する抵抗感を少なくしていきたい。環境については、体育用具の充実と使いやすい体育倉庫になるよう整備を進めていきたい。